



令和4年度 生活困窮者自立支援制度人材養成研修
就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修

『多機関・庁内連携で進める就労支援 ～コロナ禍を通じた新たな相談者への対応に向けて～』 実践報告

ひとりの課題
から地域へ

行政・市民・事業所と
協働・連携

思いと人が
循環する地域づくり

社会福祉法人東御市社会福祉協議会

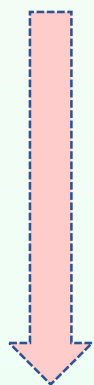
生活・就労支援センター まいさぽ東御

相談支援係長・主任相談支援員 佐藤 もも子(社会福祉士)

東御市社協（まいさぼ東御）の相談員は
お一人おひとりの相談を大切にします

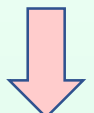
これまでの歴史

聴く・想像する



それらを踏まえ

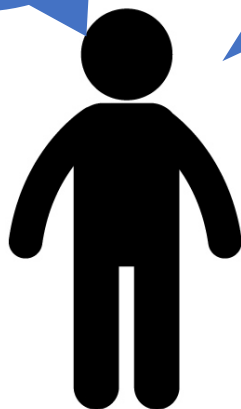
「今」を捉える



どうなりたいのか
歩みを共に

祖父母
世代
出生～
現在

いままで
●●な人
だった



悲しみ
苦しみ
つらさ

幸せ
肯定
自信
楽しかったこと

言葉に
出来ない・
語らない
こと

本人がみている
視点や景色をみていく

未来をサポートする

新たな気持ちで
その人に
向き合っていく

まいさぼ東御の相談（生活・就労）の支援方針

- **受け止める、責任あるつなぎ、あきらめない、考え続ける**
- 年金などの経済的な制度の最大限の活用、任意事業等の最大限の活用
- 就労や活動は、**本人の希望**と本人が**出来ること**を調整
- 就労や活動の実体験から、**本人が「自分の力に気づく」こと**
- 就業後のサポートは出来る限り行う
- 困りごと & 事業の発信に手間をかける
- **出口（就労先、居場所・・）を「地域」（東御市・周辺）で探す**
- ないものは、**その都度、ネットワークや資源を創る**

協力者を増やすことは地域づくりそのもの

その人の生活の改善・人や地域社会との再つながり
安心して地域で暮らし続けるために！！
(ソーシャルワークの理念)

まいさぼ東御の就労支援に関する主な取組経過

2015年	生活困窮者自立支援事業 受託開始
2016年	プチバイト（福祉）・認定就労訓練（福祉）
2017年	「認定農業者の会・新規就農者講演会」講演会参加 プチバイト（農業事業所等） 東御市合同就職面接会参加
2018年	<u>協力事業所登録・仕事生活サポーター 開始</u>
2019年	協力事業所一覧パンフレット作成 <u>あんしん未来創造フォーラム 開催</u>
2020年	協力事業所研修会 開催 新型コロナウイルス感染症の影響による相談者激増 <u>緊急就労支援事業（長野県社協助成+東御市助成）</u> 市内高校の「キャリア教育」に協力

「就労支援」を地域の皆さんと共にコツコツと取り組んできた…

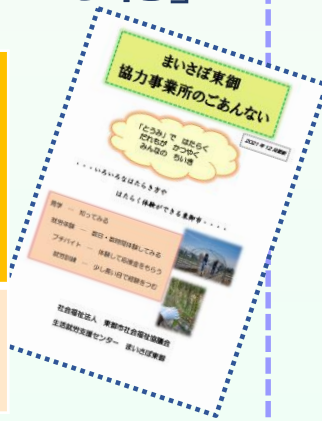
→ 「協力事業所」「市民の協力」は着実に増えてはいるが…「就労支援」に行き詰まりも…
さらにコロナ禍による「相談者増」や「相談者層の変化」

2021年	就労準備支援事業の定期的な集団プログラムの本格開始 多様な地域連携による就労支援ワークショップ開催 事業所と就労希望者をつなぐ マッチングシート開発
2022年	自立相談支援機関+庁内連携+事業所で考える就労支援と 農福連携のこれからを考える会議

2015年開設当初から現在まで事業所との連携で やってきたこと

まいさぼ東御協力事業所登録 パンフレットにして「見える化」

農業・栽培	福祉・医療	食品・製造	環境整備	交通警備	その他
10	4	4	2	2	2



協力事業所登録の発信と ネットワーク・研修 (事業所側の多様な就労への 意識醸成)



見学・プチバイト (2021年度) 緊急就労支援事業 (2020年～21年度)

	農業	福祉	小売	製造	産廃	医療	サービス	派遣	運送
緊急就労	25	2	3	4	1	1	1	1	1
プチバイト	5			1	1				
見学	5			3	1				

2021年度 フードサポートとうみの縁 (企業内フードドライブ)

50人以上の
就業者を抱える
製造業者
6社協力



協力事業所登録&ネットワーク事業所側への働きかけ

- 働きたい人が働きやすい地域を目指して
- **フォーラム開催**や協力事業所の**学習・交流会開催**

2019年 まいさぼ主催
(後援：東御市、東御市商工会)



2019年3月あんしん未来創造フォーラム

○めざせ百歳社員！四世代が同居する
超高齢社会のモデル

「コーケン工業株式会社」会長村松氏の講演

○市内協力事業所の取組み発表

コーケン工業は「すべての人々に優しい温かい会社」「社員みんなの夢は、最高齢の89歳の男性社員が100歳まで元気で働くこと」
(坂本光司著書 「日本でいちばん大切にしたい会社6」より)

2020年 まいさぼ主催
(共催：東御市・
県労政事務所)

「だれもが働きやすい 職場づくり」とは？

※「働きやすい」は生産性を上げる！「業を取る働き方改革」とは??
**若者、障がいや病気を持つ方が
働き続けるために事業所ができること**
※長野県東信労政事務所特別相談員(産業カウンセラー)による研修も開催予定

東御市総合福祉センター・3階講堂

令和2年2月26日 午前9時30分~11時15分
(※個別相談会 11時20分~12時)

連絡先：まいさぼ東御(東御市社会福祉協議会)・電話：(0268)-75-0222
・電子メール：maisabo@tomisyakyo.or.jp

自己紹介・報告 「まいさぼ東御 相談状況の報告・協力事業所の取組報告」
研修会
「だれもが働きやすい職場づくりとは？」
*若者、障がいや病気を持つ方が働き続けるために事業所ができること
講師：東信労政事務所特別相談員 産業カウンセラー 白石 真樹氏
「事業所の取組みや困りごとについて情報交換と解決のヒント」
*他の事業所との意見交換や専門家からのアドバイス
助言者：白石真樹氏、上小園域障害者就業生活支援センターSHAKE 所長 向後泰雄氏
今後の取組について
*協力事業所ネットワークの今後・第2回 あんしん未来創造セミナーの開催
働きやすい職場づくりについて 個別相談会…希望事業所のみ 助言者：白石 真樹氏
*この催しは、まいさぼ東御に登録している「協力事業所」の研修会として開催しています。
今回は、登録の有り無しに関わらず自由にご参加いただけます。
多くの事業所の皆さんと、働きやすい職場と地域づくりについて学び、考えます。
主催：社会福祉法人東御市社会福祉協議会 協力：東御市、長野県東信労政事務所

コロナ禍で「就労体験」などに協力する 「まいさぼ東御 協力事業所」が増えました

- 職場見学、就労体験（就労準備支援事業）、プチバイト、認定就労訓練…に協力いただいた企業を、「協力事業所」として登録。
- パンフレット化
 - ①ご本人が職場や仕事のイメージが出来るよう
 - ②協力事業所の「見える化」

現在
25事業所が
登録
* 継続募集中

仕事の内容
20か所で野菜を育てている農家

企業・事業所名
アグロノーム



～ 事業所の概要 ～ 
住所 住所 **東御市和7819-1**
従業員約10名

・ 普段は野菜、ワイン用のブドウの生産・販売をしております。

・ その他、子どもたちの農業体験を受け入れ、イベント出店もしています。





見学できる場所・体験できる仕事等 

どの様な方がマッチングしますか? 

・ 仕事の種類により、合った作業をしてもらうので、あまり気にしません。

・ 同じ作業を淡々とやるのが好きな方が向いている可能性があります。

	対応	受入人数等	見学できる場所・体験できる仕事
① 見学	✓	何人でも対応可 9時～16時の1時間	ミニトマト、ナス、ピーマン、ズッキーニ、ワイン用ブドウ他
② 就労体験	✓	応相談	野菜の収穫・草取り等
③ プチバイト	✓		野菜の収穫・手入れ、ブドウの管理、草取り・草刈り（ビーバーによる作業）

まいさぼ東御 事業所との関係の紡ぎ方

❖ 事業所と繋がる初期段階

- 双方にとって、良いことが見込まれること
- 相談窓口の主旨は説明をするが、福祉側の一方的なプレゼンに終始しない
- 事業所側の雇用に関する課題や困りごと、実情をよく聴く
(何か解決策を提示できないかなど)
- どんな仕事があるのか、作業の切り出しができないか提案する
(作業の切り出しシート)

❖ 事業所と繋がり続ける段階

- 当方の情報を（そう頻繁は難しくとも）発信し続ける。
- 就労する人、事業所側の相互理解が進むこと。
- ちょっとした変化や気になることは、遠慮せずに連絡を取る。
(予防的取り組み、安心感、誤解を避けることが出来る)

協力関係をゆるやかに保ち続ける

就労準備支援事業 「くるme ここから」 グループの力！

- ① 月2回の集団プログラム・個別のプログラム・週1回の作業を組み合わせる
- ② 地域の人材・事業所（行政含む）と協働する
- ③ 相談している人や卒業をした人に協力をもらう → 支える側へ

輪になり、お互いの顔がみえるかたちで行いました。程よい緊張感がありつつ、あたたかな雰囲気でした



令和3年 年間プログラム名

- 「自分の1日を振り返ろう」
- 「コラージュで自己発見」
- 「世界にひとつ、オリジナル言葉集をつくろう」
- SST体験「対人コミュニケーションスキルを磨こう」
- 市民サポーターによるお話し会「今を生きる」
- 自分発見「エゴグラム&アサーション」
- くる meeting「今後のくるme 作戦会議」
- 「知って得するハローワークの基礎知識&活用術」
- 表現を楽しむ会「一智段結！1枚の紙に自分の想いをのせてみよう」
- 「就労へのファーストステップ 応募書類編」
- 「免疫力アップ！自宅でできるセルフケア術を学ぼう！」
- 「職場で役立つコミュニケーション練習」
- アートコミュニケーション
- お話し会「私の体験談～継続したから今がある～」
- 職場見学会「見て聞いて感じて私のはたらく姿」
- クリスマスイベント「あたたか会」
- 新年会「描こう私の未来」
- 「選ばれる人になろう！実践で役立つビジネスマナー」
- 「セルフチェックシートで私を見える化！？してみませんか？」
- 「正しく情報を得よう！ネットの活用方法！！」
- 「ストレッチ&ステップで心と身体を整えよう♪」
- 年度修了式

自己覚知を促すような内容からはじめ、徐々にメンバー間の交流や社会との接点をもてるような内容を取り入れるなど、段階的に成長できるように展開
個別の配慮にも留意し、安全で安心して参加できる居場所となるような場づくりを意識

まいさぽ×事業所
まいさぽ×行政

就労準備支援事業を通じた連携

○就労体験



体験、見学とも
「協力事業所」で
受け入れ

○職場見学



○居場所づくりの活動に協力
居場所づくり×行政（生涯学習部署）
×就労準備支援
…多様な人々との重なり合いと
社会との関りが地域の活性化に



まいさぽ
× 社会福祉法人

○2016年(H28)に「**就労支援**」で新たな協働をスタート
50代後半の持病を持つ方の支援
作業の切り出し、短時間労働

○**プチバイト**(県社協・社会福祉法人経営者協議会による応援金付職場体験事業)
「認定就労訓練事業」を活用(市内初の認定就労訓練事業所の登録)

状況の共有から「居場所」づくりに発展

居場所づくり(くるme)で
目指しているもの(コンセプト)

✿ここに集う人みな「居場所」の構成員
皆が「居場所」を楽しむ人

→**支え手と受け手に分かれ**ない

✿ほっとする、安心できる、楽しい…

→「**求めるもの**」は人それぞれ

✿子どもなど参加者が、生活習慣や文化を
学び、体験ができる場に

→**人との出会いを通して育み合う**



まいさぼ
×行政 (労政)

2017年～東御市
合同就職面接会に参加



まいさぼ
×行政 (農政)

「平成29年度認定農業者の会・
新規就農者講演会」にて
就労支援の取組紹介

コロナ禍で
新たな連携

失業等の方へ
長野県独自
就労支援事業
(3分の2賃
助成)

長野県社協
緊急就労支援事業



農業者の
「協力事業所」に
登録始まる

東御市緊急就労支援事業助成金 (東御市商工観光課商工労政係所管)

農業者
事業所
企業

まいさぼ

まいさぼ
相談者
(求職者)

農林課から
農業者に周知

- ① プチバイトで
受け入れ実績多数
- ② コロナ禍の
緊急就労支援事業で
新規登録事業所登録

まいさぽ×市民

東御市版 市民による伴走型支援 「仕事・生活サポーター」

- これから、社会に出たい人に「マンツーマン」で寄り添う人
- 「友人」となり得るような関係で歩みを一押し
- まいさぽとサポーターは、目的を共有し進む
- 就労体験や生活相談に同行

その人の
話を聴き、存在を受け止める。
時間を共有し、
父や母・兄や姉・友人のような
存在として
本人をサポート



まいさぽ×高校

地元高校と**仕事**や生活をキーワードに連携

- 日常的な連携（気になるご家庭のご相談）
- **キャリア教育に協力**
（将来に向けた職業選択について一人ひとりに助言し、
職について今から考える大切さを伝える）
- 「子どもだれでも居場所」にスタッフ的に参加
- まいさぽの単身者の会「はーべすとの会」と協働して
ボランティア活動（花だんづくり）に取り組む



まいさぽ × 行政
× 事業所 × 市民

多様な地域連携による就労支援 ワークショップイメージ図

(主催：ユニバーサル志縁センター、共催：東御市社協)



2021年12月
2022年1月
開催！！

協力事業所
農・製造・福祉

サポーター
当事者

保護司

県社協

商工会

支援を必要とする人のニーズ

人間関係・職場環境・自信がない（不安感）・孤立
モチベーション・性質・適性（ミスマッチ）・家族のケア
病気や健康不安・障がいや高齢・社会的な弱者・困窮
交通手段・家庭環境・長期離職…

地域包括
支援セン
ター

ハロー
ワーク

必要される活動

相談者の状況にあった適切な相談支援・就労準備や多様な働き方のメニューを増やす・就労意欲の向上やキャリアの形成（模索・形成を見通す）支援・スキルの向上や課題解決等に関する支援・安心して働き続けられる支援

障がい者
就労支援
事業所

行政
商工労政

職場や市民の理解の広がり・トップも変わる
機関連携強化・行動が活発になると地域活性化
農業の荒廃地が減る・移住者が増える

住みやすく働きやすい東御へ

消費生活
相談員

行政
農林

行政
生活困窮

行政
障がい

教育
委員会

2021年 冬 多様な地域連携による就労支援 現状把握と活動評価のPDCAワークショップ 概要

参加者

行政：福祉（障がい、生活困窮、高齢、子ども）、教育委員会、商工観光課、農林課、消費生活
就労関係機関：ハローワーク、商工会、障害者就業・生活支援センター、障がい者就労支援事業所
その他：まいさぼ東御協力事業所（農業・工業・その他）、保護司、長野県社会福祉協議会
まいさぼ東御「仕事・生活サポーター」（伴走ボランティア）、市内高校、相談当事者

1回目 2021年12月22日
（市内中央公民館）・29人参加



1. 生活就労支援センター「まいさぼ東御」について
2. ワークショップ①
「就労・仕事で悩みを抱える人って、どんな人？」
～支援対象者のプロフィール、悩みや不安を共有～
3. ワークショップ②
「相談支援のアクティビティ（活動や事業）をイメージする」～実施していること、企画していること、あったらいいなこと～

2回目 2022年1月25日
（オンライン…ZOOM）・21人参加



1. ワークショップ①（第1日目の補足）
「就労・仕事で悩みを抱える人って、どんな人？」
2. ワークショップ②（第1日目の補足）
「相談支援のアクティビティ（活動や事業）をイメージする」
3. ワークショップ③
「就労支援の活動や事業がめざす目的について」
～さまざまな活動や事業は何を解決していることをめざしているのか？～

ワークショップ企画時の多機関の関係者へのアプローチ (意図・選定・打診・参加者招集まで)

ワークショップ 開催の 意図

- 多機関や地域の事業所と就労支援の課題
(就労ニーズはあるが、地域で就労先が見つからない) を**共有したい。**
- 就労支援の**具体的な手法に手詰まり感**
(従来のやり方では、就労支援の成果が上がりにくい)

ワークショップ 参加者の 選定

- 行政の福祉課以外の**関連する多様な部署**
- 従来から取り組んできた「**協力事業所**」 ○就労支援事業所
- 子どもの支援関係者** (学校卒業後の人生で就労は大きな事柄)
- 当事者** (当事者からの生の声を活かす) ○市議会議員

ワークショップ 参加への 打診

- 開催の**意図や主旨を丁寧に説明**
- 参加することで、**就労支援の現場の課題を共有**して欲しいこと
- 就労支援について、**専門的な見地から学べる**
- 東御市内の就労支援にかかわる**関係者と繋がる機会**

ワークショップ 参加者 招集

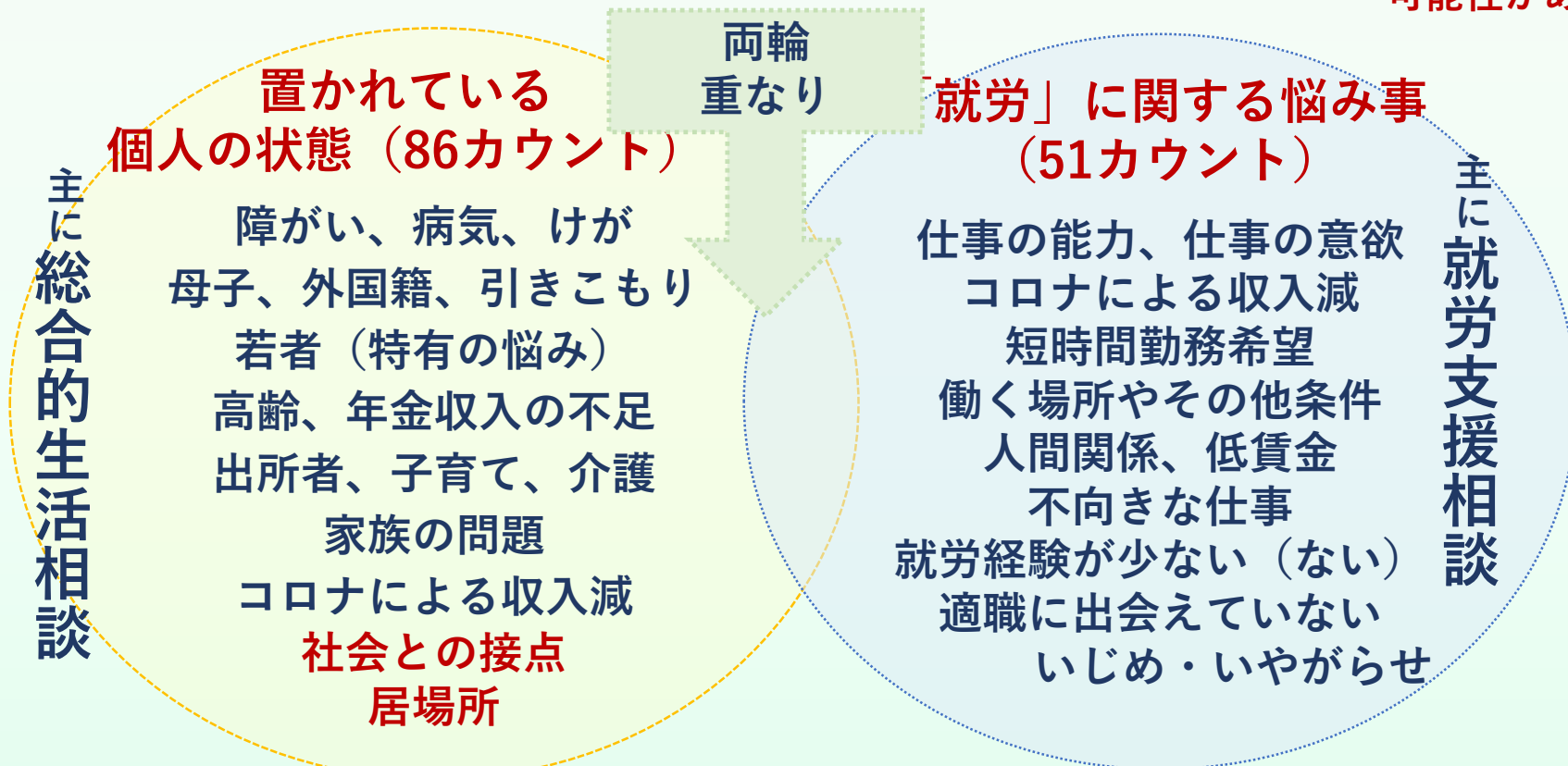
- 電話 & 開催通知 (メールor郵送) を出し**参加者数を事前に把握**
また、2回のワークショップに両日参加を依頼
- 参加者をグループ化 (**多様な分野や立場の人が混合**するよう)

1回目終了後…ワークショップに参加した商工労政係長

「まいさぼ東御にワークショップで話したようなニーズがある人がどのぐらいいるのか知りたい」

就労に困難や課題を抱える61人*まいさぼ東御の相談者
(現在、職についていない人・転職希望の人) の状況

支援により、
就労したり
転職できる
可能性がある



就労に課題を抱える人が一定数居る…

「総合的生活相談」はもちろんのこと、
「就労支援」にさらなる創意工夫が必要では??

2回のワークショップでみてきた

コロナ禍以降の支援対象者と必要とされる就労に関する活動

支援対象・ニーズ

- コミュニケーション・人間関係
- **職場環境**
- 自信がない、不安
- **孤立**
- モチベーション
- 個人の性質
- **適性・スキルのミスマッチ**
- **家族のケア**
- 病気、健康不安
- 障がい、高齢
- 社会的弱者
- **前科、トラブル**
- **困窮**
- **交通手段**
- **家庭環境**
- 長期離職



必要な就労に関する支援（活動）

- ①相談者の**状況にあった適切な相談**
- ②就労準備、**多様な働き方のメニューを増やす**
- ③就労意欲を向上させる
(**キャリアの模索・形成を見通す**)
- ④相談者のスキルの向上や課題解決等に対する支援
- ⑤安心して**働き続けられる環境づくり**

2回のワークショップでみえてきた 就労支援の取組から期待したいこと 目指したいまちの姿

就労支援の取組みで 期待したいこと

- 職場、市民の**理解が広がる**
- **トップから**理解を変える
- **人材の確保**
- 関係機関との更なる**連携の強化**
- 行動が活発になることで
地域活性化
- 農業の**荒廃地が減る**
- JA直売所など**若者が増える**
- **移住者**が増える
- 東御市の人口が増える
- ほどよく田舎
- 地域の問題は**地域で解決する**

目指したい東御市の姿

- **住みやすく働きやすい
東御市**
- **元気に働ける**東御市
- ひとにやさしい社会
- みんなが理解し合う社会
- **一人ひとりが輝ける**地域
- 困ったこと苦しいことが
あった時、**気軽に相談でき
る社会、分かち合える社会**
- まち全体が元気のあるまち
になる

ワークショップ後の変化 ①

まいさぽの**就労支援の強化**「良いマッチングで就労体験を増やす」

事業所

作業の切り出し

仕事の内容を細かくし、
作業の特徴を捉える

作業・事業所を案内 するチラシを作成

- ①作業の特徴（相談者用）
- ②事業所の特徴（支援者用）

仕事や事業所と
ご本人がマッチングするよう
新たに紹介ツールを作成

体験者

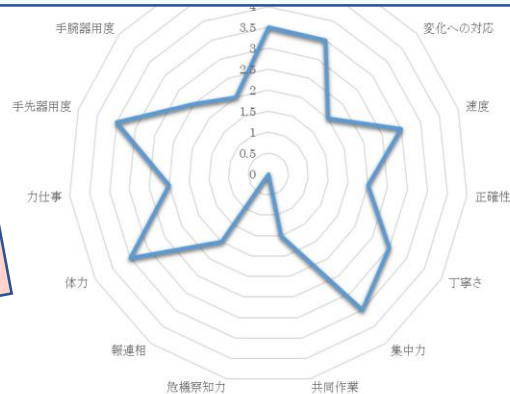
体験者の状況把握

ご本人の就労の経験の
有無や「得意不得意」
性格・志向性等

体験者の紹介シート

体験者のマッチングと
事業所への紹介に利用

トマトの収穫体験で確認できること・
作業の特徴



アグロノームさん



ワークショップ後の変化②

関係者の連携に対する意識・行動（実践）の変化

【まいさぼの気づき】・・足元の連携を固める

- ・ 行政の困窮部門との目線合わせと目的の共有
- ・ 今まで以上に、商工労政部門との協働が必須
（無料職業紹介を活用した就労支援の仕組みづくり等）
- ・ 「農業」との連携は「農福連携」会議に掛け合わせる
- ・ 協力事業所とのネットワーク形成の必要性
- ・ 重層的支援体制整備事業を活用した仕組みづくり

【参加した他機関・市民の気づき】・・社会が変わる必要

- ・ 農業者のニーズと就労したい人を結びつける機能が欲しい
- ・ 市内の商工業の社長など、トップの意識変革に向けた事業
（企業風土の変革に向けて）
- ・ 事業所、まいさぼ、その他公的機関の特性や役割を知り、
必要な時に声をかけあう（互助的な関係性）

今後（新規にまたは継続して）挑戦したいこと

① 行政とのさらなる連携と協働

→担当（生活困窮）部署と一緒にとりくむ視点

→行政の多様な部署 ニーズに対する理解と取組みの協働

② 就労準備・就労体験を核とした多様な就労の形の模索

→一般的な履歴書や面接などがいない就労

→気軽に就労の体験から始められる

→仕事の切り分けなどで、短時間就労の推進

③ 就労支援からはじまるまちづくりの視点

→行政×（就労を受け入れる）事業所×一般市民の協働

→重層的支援体制整備事業の活用

→取組みを、できる限り「見せる」方法

→具体的事例を丁寧に取り組み、そこからネットワークを作る

まいさぼ東御の相談・就労支援のしくみ

お仕事相談会・アウトリーチ・自立相談支援

- ◆ 緩やかに、左から右へ進むが、「行ったり来たり」もする
- ◆ それぞれを細切れにせず、**一体的**に取り組む
- ◆ **生活総合相談**（伴走型の支援）を同時並行

自信と自己肯定感を育てる・本人の力を「信じる」支援



「友人・兄・父」のように寄り添う「**仕事・生活サポーター**」

就労準備と重なりもある

事業所の仕事を丁寧に切り出した「**就労体験プログラム**」と本人のマッチング

就労継続相談

見学

就労体験

プチバイト

認定
就労訓練

就業

職業興味検査・職業適性検査・KT性格検査・面接練習
ハロワークを通じた職業紹介

体験談を話す
戻れる居場所

就労準備支援事業 『くるme ここから』

～「**まず一歩**」踏み出す・居場所や起点として機能～

コミュニケーションスキル、決まった時間に来る習慣づくり、人と交わる自分の意見を言ってみる、仕事のイメージづくり、創作活動による自己表現
社会人としてのマナー講座、ハロワークの活用法、履歴書の書き方、軽作業

土台づくり

事例 寄り添い支援で就労にチャレンジ 20代男性（Aさん・Bさん）を中心に世帯に6年間寄り添う （経済的な困窮、長期離職、要介護状態や障がいを持つ家族）

世帯と
まいさぼが
繋がり始め
* 民生委員の紹介

まいさぼの関わり
（世帯全体の生活とAさん・Bさんの生活と就労の相談）

Aさん担当の「仕事生活サポーター」が伴走

Cさんのの困りごとに対処し、
法律の専門家に繋げる
→Cさんから、
長期離職しているBさんの
相談を受けるが、
Bさんが相談を希望しなかった

4年目～5年目

6年目

Aさん Bさん

まいさぼの紹介で
Aさん、Bさんはそれぞれ
協力事業所で就労体験→就労開始

2年目～3年目

Aさん

①Aさん地域の支援者から紹介され
就職先見つける
→Aさんとまいさぼは
つながりつづけ、時々報告や連絡を
双方する。
②約1年働き続け退職

Bさん

まいさぼとBさんは、
Bさんの深刻な
困りごとを一緒に解決

Aさん Bさん

Aさん

①最初は相談を拒否
②半年かけて相談開始
③プチバイトに挑戦
→継続できず断念
→しばらく関りが薄くなる

Cさん Bさん

Aさんの父CさんやBさんと、
Dさんの介護や生活全般の
困りごとをきき、支援をする

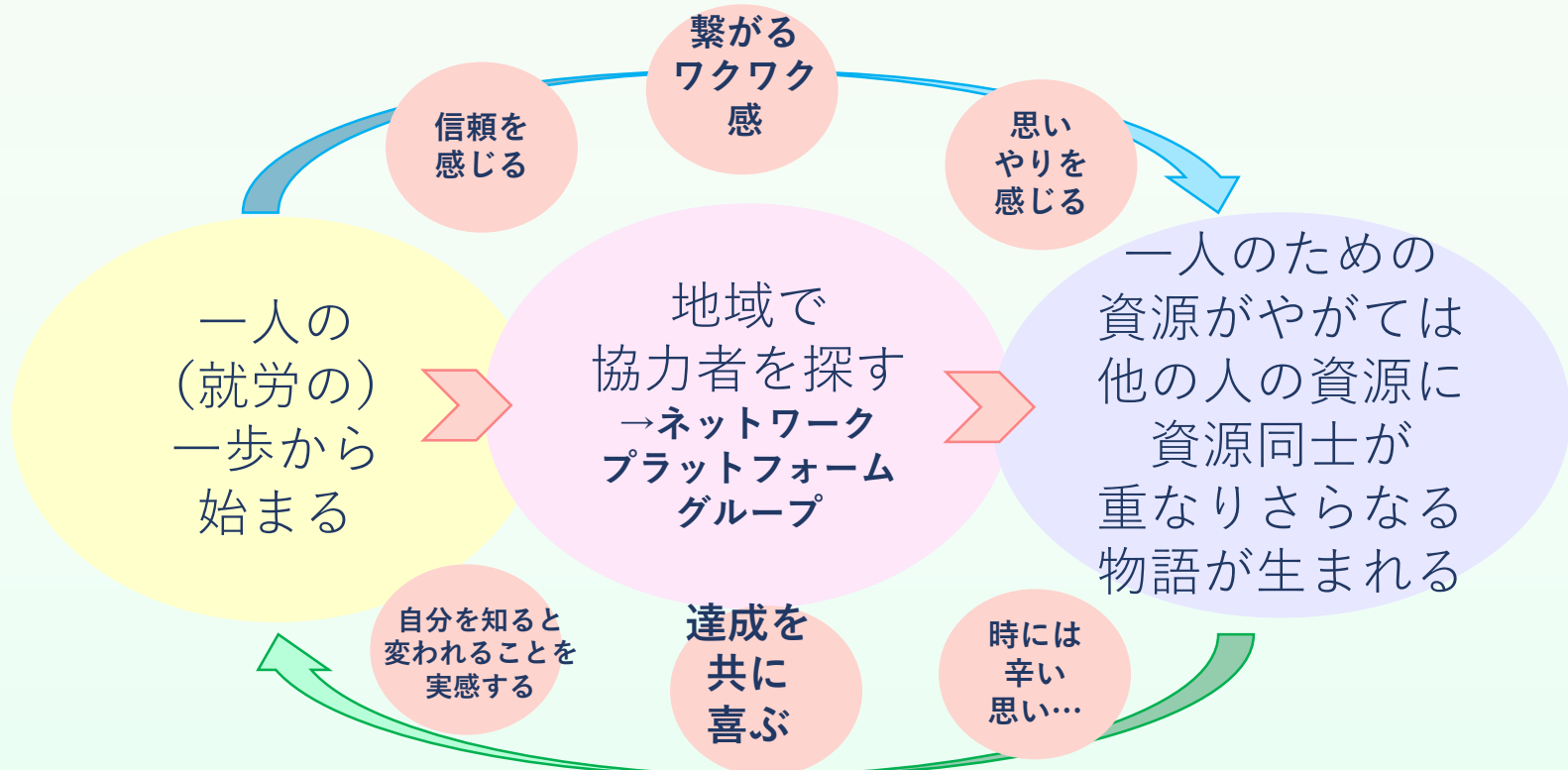
Cさん Dさん Eさん

世帯それぞれが
困りごとや
生きづらさが
ありました

世帯のEさんの支援者
から相談の依頼
「長期に離職している
Aさんと会ってほしい」

まいさぼ：Eさんの支援者とゆるやかに繋がり続ける

ソーシャルワーカーは、
自分・相談者・地域を丁寧に「育て、育ちあい」
「自分・相談者・地域」の物語を共に作っていく



土台：ソーシャルワークの**価値・技術・知識・経験**（智）

（就労支援の**技術・知識・経験**）

- 最初は「目の前の必要とされること」を取り組んでみる
 - 協力者の「共感」や「組む意味」を感じてもらう
 - 一歩踏み出したり、新しいことや輪が生まれる
- それらを大切に育てていくと…**だんだんと多くの人の資源に育っていく**